

広報誌



TAKEMOTO  
HOSPITAL

# 菜の花だより

あなたのための医療でありたい



謹賀新年

第74号

2025年1月  
発行

医療法人創治 竹本病院



# 新年のご挨拶



謹んで新春のお喜びを申し上げます。

平素より、当法人の医療活動に深いご理解と温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年も地域の皆様とともに歩み、医療を通じて少しでもお役に立つことができたことを、大変嬉しく思っております。昨年4月より病院組織の新陳代謝をはかるために病院長を竹本育聖に交代し、次世代に向けた体制整備を進めていくことになりました。

これからの将来は経済状況の変化、地球環境の変化、紛争等、物事の秩序がどのようになるか予想もつかない時代が変わりつつあります。

そういった状況の中で、私たちは地域に密着し、医療の問題解決に取り組み、多少でも地域医療に貢献できるように職員一同、努力する所存でございます。

引き続き、地域の皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとって健康で実り多い一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

理事長 竹本範彦



## 竹本育聖院長(糖尿病専門医)

### ～糖尿病への取り組み～

近年では、糖尿病有病者、予備群が約2,000万人と推計され、6人に1人が糖尿病の可能性を指摘される時代になりました。糖尿病は、放置すると網膜症・腎症・神経障害、さらには、脳血管疾患、心血管疾患、感染症の発祥、進展をも促進することが知られており、合併症の抑制が患者のQOL(quality of life)維持につながります。

私は、糖尿病の患者さんを中心に内科全般を担当しております。

当院では、多数のかかりつけ患者さんで支えられております。紹介状の有無にかかわらず、患者さんをお受けするため、多数の患者さんが受診されます。その中には、多岐にわたる疾患をもつ患者さんも多く、初発の糖尿病が見つかる事も少なくありません。

当院で糖尿病患者に取り組む最大限のメリットは、合併症に対応できることです。専門の中で範疇を決めてしまうと、全身まで診ることが少なくなりがちです。私は大学病院の総合診療科内の糖尿病部門にて、自分達で合併症の診断や治療を行ってきました。



外来通院中の方が、採血・画像検査などで合併症の発症・進行が疑われれば、入院の中でさらに詳しく検査し対応出来ますし、改善すれば、外来でのフォローも可能です。

また、適宜、他科の医師・看護師・療養指導士・栄養士とも連携し、包括的に対応していくスタンスです。

現在、当院には、私のほか、腎臓病や脳外科や眼科、整形外科の専門医の先生も在籍しております。

このような環境のなか、様々な専門家が集まり、相談し協力することで、治療につなげられることも当院の特徴です。

どんな症状、どんな疾患に対しても断らずに診るために、私たちの礎となる患者さんの症状、主訴に耳を傾け、感謝の気持ちを持って臨むことを大切にしております。

また、患者さんのQOLに応じた対応や治療を、無理なく一緒になって考えるお手伝いができればと考えております。

もちろん、どのような患者さんであっても随時受け付けております。どこの科に紹介していいかわからない、何を鑑別診断にあげていいかわからないといった患者さんも、いっぱいいらっしゃいますので、遠慮することなくご紹介いただければ幸いです。

地域の先生方とともに、協力し合い、患者さんが満足できるような医療体制を構築できればと考えております。

日々変化する医療に対し、熱いハートを持って、一緒に地域医療を盛り上げていきたいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。

# ミクロネシア

竹本病院はミクロネシア連邦を、様々な形で支援しています。令和6年7月20



令和6年1月  
高知県知事と  
大統領府へ訪問！



支援物資輸送



ミクロネシア大統領と竹本理事長



竹本病院は  
ミクロネシア  
支援してい

# フ大統領 来院！

日、支援のお礼に大統領や大使の皆様方がわざわざ来院してくれました！



# 第22回 竹本病院関連施設合同発表会

令和6年11月2日に第22回合同発表会を新ロイヤルホテル四万十にて開催いたしました。竹本病院では毎年一回、当院及び当院関連施設によって、業務に関わる研究発表の場を設けています。今年はコロナ禍で開催に影響を受け、5年ぶりの開催となりました。この「合同発表会」では、様々な職種の方々に発表いただいております。日頃の努力の成果が見て取れる素晴らしい研究成果が挙がっています。又その研究成果を参考にしようと、近隣地域の医療、施設関係の方々が多数出席され、発表する側、聞き手側の両方に実りあるものとなっております。第Ⅱ部の講演では、講師として東京医科大学病院の栄養管理科科长、宮澤靖先生をお迎えして「命をつなぐ栄養管理」のテーマのもと、経験豊富な先生の体験談もふまえて、どなたでも理解しやすい内容であった為、大変有意義で興味深い講演でした。この合同発表会では施設を超えて情報を共有し、それぞれの立場から皆さんと一緒に考えて現場に持ち帰り、実践する機会になる事を目的に開催しています。

## 講演

### 命をつなぐ栄養管理

#### ～動いて食べる力を引き出すチームアプローチ～

講師：東京医科大学病院 栄養管理科 科長 宮澤靖先生



### 当院からも2例の研究発表がありました



① 「食欲不振患者様に対する補食一覧表の作成  
～多職種連携による摂取量改善の取組み～」  
竹本病院 管理栄養士 友永ななせ・岡谷麻衣

② 「超高齢患者のPhase angleの特徴についての一考察」  
竹本病院 理学療法士 濱田将吾

# 第18回 院内実践発表会



当院では年1回、症例研究・実践の発表を行っております。

日常の業務を振り返り、今まで気がつかなかった事柄などを洗い出して発表することで、今後の更なる業務改善につなげていく目的です。

今回は、看護部とリハビリテーション部、栄養科が発表を行いました。

1例目：【回復期リハビリテーション病棟における回復意欲向上へむけた看護介入】看護部・武田綺羅

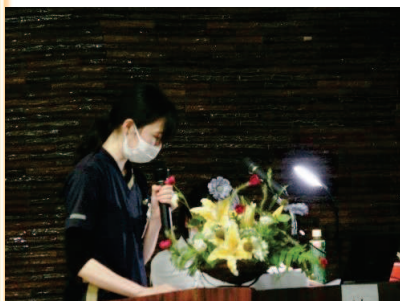
2例目：【患者に適した食事開所を目指して】看護部・高田沙耶

3例目：【ポジショニング・環境調整が食事摂取に及ぼす影響について】リハビリテーション部・川内聖

4例目：【肺炎で入院した患者の口から食べることを支援するための看護師の役割】看護部・星畑果南

5例目：【先輩看護師から学ぶ面会制限下での対応について～コロナ禍での看護の変化～】看護部・亀井千秋  
皆さん各業務における現状の問題点や課題を洗い出し、医療サービスの向上について着目し、熱心に語ってくれていました。

この院内実践発表会も今年で18回目を迎えますが、事例を通して気付かされることが多々あり、参加者からは「気持ちを新たに業務に取り組める」との意見も多く出ていました。今後も患者さんに心のこもった、より良い医療を提供できるよう努力させていただきます。



# 管理栄養士の健康レシピ

## ～ショウガ編～



風邪かな？と思ったら生姜湯を！



風邪をひきそうな予感がしたらこの生姜湯を持ってお風呂に入ります。温まりながらこれを飲むと汗が出てきます。そのままお布団に直行！翌日は風邪のことなど忘れていきます。

### 材料 (マグカップ1杯分)

生姜(すりおろして)	小さじ半分～1杯ぐらい
片栗粉	小さじ1ぐらい
水	片栗粉と同量
熱湯	マグカップ1杯分
砂糖	小さじ1～好みの甘さ

### 作り方

1

片栗粉をマグカップにいれ同量の水で溶かします。そこに熱湯を注ぎます。(熱々沸きたての熱湯です)

2

スプーンでよくかき混ぜます。片栗粉が溶けて透明になったらすりおろした生姜と好みの量の砂糖を入れて溶かし、出来上がり。

### コツ・ポイント

もし、お湯がぬるくて片栗が透明にならなかったら電子レンジで数秒チンします。グラグラ沸いたお湯を使うのがポイントです。片栗の量は好みに加減してください。



「ショウガは血圧低下を助け、血中脂質の値を減らすことができるからで、どちらも心臓病を防ぐことに役立ちます」。また、ショウガはコレステロール値を下げることに役立ちます。